

◎組合訪問記「電機連合・日立アプライアンス労働組合多賀支部」

組合のための組合でなく、組合員のための組合であり続けたい

Q1 まず日立アプライアンス労組多賀支部について。

この多賀工場自体は、2009年に創立70周年を迎えますが、労働組合も長い歴史を持っています。会社が2002年4月に日立製作所から分社化して、組合も昨年2007年9月に日立アプライアンス労組多賀支部となりました。この多賀支部自体の歴史は、戦後もなく63年の歴史を持っています。終戦の年1945年（昭和20年）12月に多賀工場労働組合として出発しました。これが日立総連合の前身で、日立製作所労働組合に統一したのは、1970年（昭和45年）のことです。我が多賀支部は、日立製作所労働組合の中央執行委員長を3人輩出している、伝統のある支部です。

Q2 多賀支部の専従役員体制や組合員数について？

現在の専従役員は、執行委員長、副執行委員長兼書記長、執行委員2名の4名体制です。このほかに書記が2名と、多賀支部として1名日立市議会議員を擁立しています。私は、多賀

支部委員長であると同時に本部の副委員長を兼務しています。

今、多賀支部の組合員数は830名ですが、派遣や請負社員は約1000名います。実際、組合員の方より、派遣の方が多いのが実情です。また、60歳で定年退職した後も64歳まで働けるシニア社員制度を持っており、会社の職務提示と本人との同意を確認しながら1年ごとに契約を更新していきます。これから定年退職者が増えていくなかで、シニア社員も含めた「ものづくり」が必要になっています。

Q3 日立アプライアンス労組多賀支部の伝統の中で、大切にされているものは？

多賀支部は、組合が結成されてから、63年という長い歴史を持っていますが、その歴史の中で「多賀らしさ」の伝統を育んできました。「多賀らしさ」とは、組合でも職場でもそうなのですが、「やると決めたら最後までやる」というのが多賀の労働組合の伝統精神になっています。現場の生産目標にしても、組合活動目標についても、みんなで腹を割ってとことん議



●執行委員長
内山 裕
うちやま・ゆたか

1982年日立製作所多賀工場入社（二槽式洗濯機製造工場に配属）、1992年日立労組多賀支部専従執行委員、2000年日立製作所労働組合中央執行委員、2002年日立ホーム&ライフ・ソリューション労働組合多賀支部副執行委員長、2003年電機連合茨城地協事務局長、2007年日立アプライアンス労組中央副執行委員長兼多賀支部執行委員長（現在）

論し、何でも自由に意見を言い合うが、一旦みんなで決めたことは、途中で止めたりせず、最後まできちんと貫徹するまでやり抜くことを伝統としています。これは組合役員だけでなく、職場の評議員や職場委員レベルからそういう気質と伝統をしっかり持っています。たまに、組合で決めた取り決めをきちんとやらない職場があると、組合の方からも「それはおかしい」とはつきり言うようにして、うやむやには絶対しません。その代わり、各職場が一生涯取り組んでいる場合は、組合として職場組合員の皆さんの声を、誠心誠意聞く姿勢を持っています。

Q4 多賀支部の日常の組合活動や行事について？

一つは、週3日、月、水、金の昼休みに、構内の組合事務所を開設しています。この時間に執行部と書記で構内事務所に詰めて、労働金庫の手続きや組合行事への申し込み、組合サービスの利用申し込みなどをしたり、組合員の相談対応をしています。また、支部所属の市会議員も時間があれば話めるようにして、市民相談



組合事務所

電機連合・日立アプライアンス労働組合多賀支部

日立アプライアンス労組の紹介

●中央執行委員長（空調支部執行委員長）
佐竹 功



2006年4月に、日立の総合空調事業とオール電化事業を統合し日立空調システム（株）と日立ホーム&ライフ・ソリューション（株）との合併による製品開発力の強化と総コスト削減、海外事業の強化・拡大、販売インフラの相互活用による販売力強化やオール電化事業の事業基盤の確立等、統合によるシナジー効果を最大限に発揮していくために、「日立アプライアンス（株）」が設立されました。日立アプライアンス（株）設立当初は、労働組合は日立空調システム労働組合と日立ホーム&ライフ・ソリューション労働組合の1企業2労働組合という組織体制でスタートし、労働条件を始めとする各種制度の統一を図り、組織統合に向けた検討を重ね、2007年9月1日に「日立アプライアンス労働組合」を設立しました。

日立アプライアンス労働組合は、空調支部・栃木支部・多賀支部・本社支部の4支部体制で組合員数は約3,700名で構成されています。主な事業としては、空調支部では業務用空調機・大型冷熱製品・低温設備製品の製造・販売・サービス、栃木支部では家庭用エアコン・冷蔵庫の製造、多賀支部では洗濯機・掃除機・調理家電の製造、本社支部は事業企画等の業務を行い、総合空調事業・オール電化事業、家電事業において市場に評価される製品を投入すべく日夜奮闘しています。

4支部のおの場所は離れていますが、4支部の委員長と書記長が中央執行委員会のメンバーを兼務し、月1回本部のある本社支部に集まって、中央執行委員会を開催し各支部間の連携強化に努めています。また、同時に中央労使委員会を開催し、様々なテーマで労使論議を展開し各種課題の改善に取り組んでいます。

ができる体制も敷いています。労働会館にも市民相談室を設けており、組合員ばかりでなく一般市民の方々にも利用頂いています。

二つ目には、支部独自の法律相談日を、毎月1回、支部の顧問弁護士に組合事務所に来てもらって開設しています。最近多い相談事は、税金や土地問題、相続問題など多岐にわたり、昔と比べて問題がより複雑化しており、なかなか素人では踏み込めない問題も多いので、法律の専門家にお願ひしています。

三つ目には、組合行事についてですが、労働会館が太平洋洋に隣接しており、毎年8月に労働会館の屋上で納涼ビアパーティーを開催しています。その際は、組合員はもちろんのこと、派遣や請負社員のみならず、職制も含めて職場単位で参加頂いています。さらに、青年女性協議会の主催で季節毎にイベントを開催し若者を中心

心に家族も含めて参加できる行事もやっています。また、事業所近くのスーパー銭湯や各リゾート施設と組合が特別に契約して組合員の皆さんが割引料金で利用できるようにして、有効に活用されています。

その他、組合活動として、月に1回、評議委員会を各職場から選出された23名で構成し（70名に1人の割合で各職場から選出）、労働会館の会議室で開き、職場での問題点や経営対策に関する意見・要望、春闘などの要求案づくり、選挙対策などについて協議します。

Q5 現在特に重点を置いている活動について？

重点課題は、何と言っても経営対策です。「雇用の安定・確保と企業の発展は車の両輪」と言う考え方で対応をしています。また、働き方も様変わりをしている中で、組合員にとっての一番重要な課題は長時間労働とそれに伴う健康問題です。長時間労働については、新製品の開発期間がだんだんと短くなってきたために、絶えず新製品の開発に追われている開発・設計部門だけでなく、製造や品質管理部門でも長時間労働が問題となっ

ています。日中は生産に追われてしまうので、昼間できなかった仕事を残業してやらざるを得ないのです。それに付随する健康管理の問題では、特にメンタルヘルス不全の問題が大きいです。そういった兆候をいち早く見つけるためにも、職場の組合員との対話が重要です。労使による安全衛生委員会の中で、対策を練ると同時に、職場からいろいろな情報をもらって、事前防止に力を入れています。支部・事業所労使間でも、様々なテーマで論議を深めており、多賀にふさわしいあり方を追求しています。

Q6 最後に労働組合の活動を進める上で、ご自身のモットー、心がけていることは？

組合員の方々が、何か困ったことがある時には、職場の上司にはなく、まず一番初めに組合に相談してくれるような支部でありたいと思っています。いろいろな課題はありますが、職場組合員が気軽に相談できて、頼りにされる支部にしていきたいと思っています。『組合のための組合でなくて、組合員のための組合でありつつきたい』という思いです。

『組合役員ではなしに、組合員の皆さんが必要だと思ってくれる組合』をめざして、これからも努力していきたいと思えます。よく「組合は職場が原点だ」と言われますが、執行委員には、時間があれば、職場に行つて、組合員の顔を見て対話するように常に言っています。一日に何人の組合員と話ができたのか、をこれから大事にしていきたい。そうやってこそ、組合員にとって何か困ったことがあった時に、まず組合に相談してくれるようになるのだと思います。組合員の悩み事、相談事を親身に聞いて対応してあげられる支部でありたいと思っています。

（文責編集＝金属労協組織総務局）